



こども青少年・教育委員会
令和 7 年 1 2 月 1 6 日
こども青少年局

横浜市中期計画2026-2029（素案）

＜こども青少年局 抜き刷り版＞



目次

Ⅳ 政策・施策

1 14の政策群と33の施策群

政策群04	こども・子育て	7（冊子33）	頁
政策群07	障害児・者	9（冊子39）	頁

1 14の政策群と33の施策群

ページの見方

01 毎日の安心・安全

現状と課題

〇防犯対策の推進

〇交通安全対策

〇インフラ施設の安全対策

目指す姿

政策指標

66.8%

調査中（原案で掲載予定）

地域での防犯力が高まるための取組や、インフラ施設の安全確保に関する主な個別分野別計画

【関連するSDGsの取組】

- 政策群番号と政策群名
政策の分野を示す14の政策群の番号とその名称
- 現状と課題
横浜を取り巻く状況と課題
- 目指す姿
4年後、そして、更に将来にわたって
目指すべき姿
- 政策指標
市民の皆様、横浜市での暮らしの意識を
表す指標（モニタリング指標）
- 関連する主な個別分野別計画等
政策群に関連する個別分野別計画等
- 関連するSDGsの取組
取組にあたり、意識するSDGsの17の目標

施策群 防犯・歩行者の安心・安全

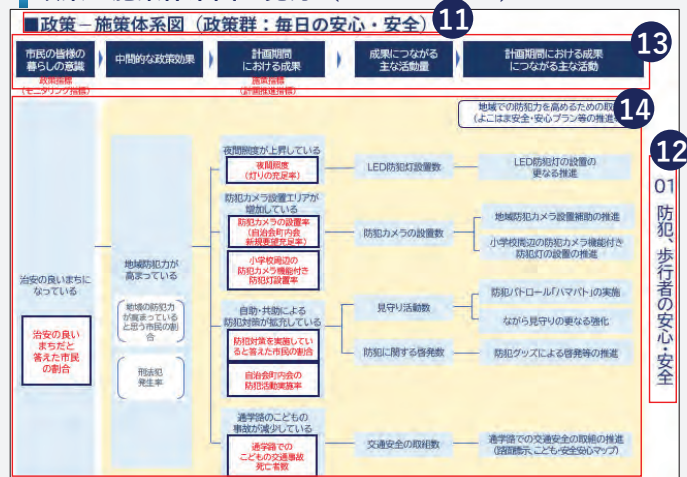
1 防犯・歩行者の安心・安全

2 インフラ施設の安全確保

【関連データ等】

- 施策群番号と施策群名
各政策群に紐づく33の施策群の番号とその名称
- 施策群における方向性
各施策群の方向性
- 施策指標
2029（令和11）年度に向けて進捗管理し、
成果発揮を目指す指標（計画推進指標）
なお、【局名】は、指標の主管局
- 関連データ等
各政策群に関連するデータ、写真等

政策－施策体系図の見方（55～69ページ）



- 政策群名
政策－施策体系図における該当の政策群の名称
- 施策群名
政策－施策体系図における該当の施策群の名称
- 政策－施策体系の考え方
「市民の皆様の暮らしの意識」を最上位の目標として、「主な活動」までを5階層で示す体系図の考え方
- 各施策群の体系図
各施策群の具体的な体系図

政策群：こども・子育て

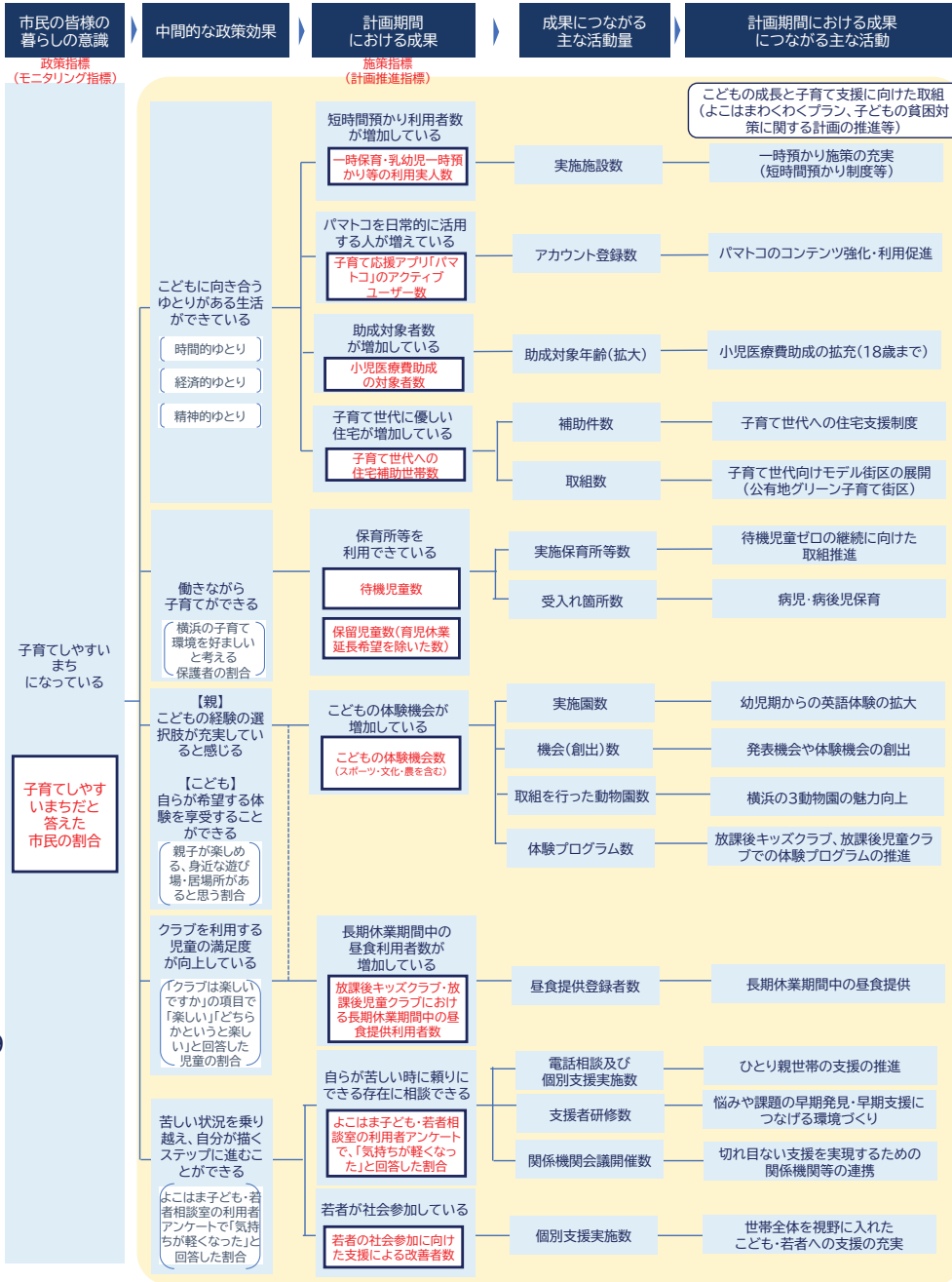
06 子育て支援

07 保育・幼児教育

08 こどもの体験機会づくり
と居場所の充実

09 困難な状況にある
こども・家庭への支援

5 (冊子59)

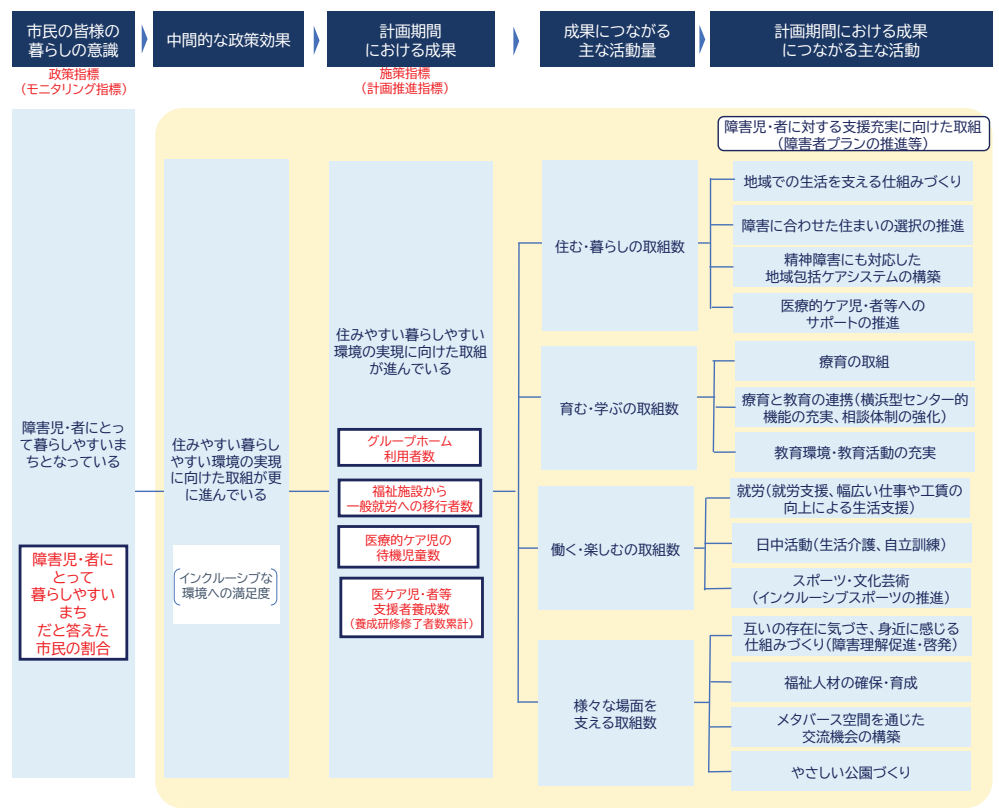


※ 中間的な政策効果は、市民の皆様の暮らしの意識を表す指標の向上に向けた経路の思考・確認の一例を掲載
本計画に記載以外の中間的な政策効果も含め、個別分野別計画の取組と連動させ、状態を確認・検証しながら柔軟に実践
※ 取組に記載している個別分野別計画はR7.12時点

政策群：障害児・者

障害児・者にとって暮らしやすいまちとなっている

障害児・者にとって暮らしやすいまちだと答えた市民の割合



※ 中間的な政策効果は、市民の皆様の暮らしの意識を表す指標の向上に向けた経路の思考・確認の一例を掲載
本計画に記載以外の中間的な政策効果も含め、個別分野別計画の取組と連動させ、状態を確認・検証しながら柔軟に実践
※ 取組に記載している個別分野別計画はR7.12時点

6 (冊子62)

15 障害児・者支援

04 こども・子育て



現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

○保育の量的拡充から質的向上への転換

- ・待機児童ゼロの継続、保育児童の低減に向けて、より効果的な取組を推進していきます。また、今と未来を生きるこどもの健やかな育ちを支えるため、質の高い保育・幼児教育の確保と充実を図ることが重要です。
- ・仕事や急用、リフレッシュ等様々な場面で安心して利用できる預かりサービスを提供できるよう、利用者の状況を踏まえ、的確かつスムーズに提供できる仕組みづくりが重要です。
- ・誰もが安心して子育てできるよう、病児・病後児保育や医療的ケア児への支援など、多様な保育を実現する環境の整備が重要です。

○ゆとりの創出（時間的・精神的・経済的負担感の軽減）

- ・「家庭と子育てに関するコホート研究（ハマスタディ）」では、フルタイム勤務の妻の平日の家事時間は、こどもがいない家庭の1.8時間に対し、こどもがいる家庭では2.2～2.5時間と長く、時間的負担感が高まることがわかりました。
- ・2023（令和5）年に保護者を対象に実施した調査では、未就学児保護者の92.7%が子育てに関して何らかの困りごとを抱えており、精神的・経済的負担感の軽減が課題です。

○こどもの体験機会の充実

- ・体験活動（自然・社会・文化的体験、本物に触れる機会など）を多く経験したこどもは、その後自尊感情や外向性、精神的な回復力が高くなる傾向がみられます。家庭環境等こどもの置かれた状況に関わらず、多様な体験ができることが重要であることから、公教育や、社会全体でこども・若者の体験活動をどのように支援していくのが課題です。

○困難な状況にあるこども・家庭への支援

- ・家族の疾病や経済的な困窮、ひとり親家庭など、困難を抱えやすい養育環境の家庭では、こども・若者が様々な課題に直面することがあります。こどもに寄り添った支援が重要であり、社会全体で見守り、悩みや課題の早期発見・早期支援を実現していくことが課題です。

目指す姿 - 4年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

- ・全てのこどもを社会全体で支えることで、未来を創るこども一人ひとりが自分の良さや可能性を発揮し、豊かで幸せな生き方を切り拓く力、共に温かい社会を創り出していく力が育まれています。
- ・こどもたちが、様々な遊びや学び、体験機会に接することで、自己肯定感を高められる環境が整っています。
- ・誰もが安心して出産・子育てができ、気持ちに余裕をもってこどもに向き合うことができています。

政策指標 - 市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標 -

子育てしやすいまちだと思いますか

57.0%



こどもの成長と子育て支援に向けた取組に関連する主な個別分野別計画等

よこはまわくわくプラン
(横浜市子ども・子育て支援事業計画/横浜市こども計画)

横浜市社会的養育推進計画

横浜市子どもの貧困対策に関する計画

ひとり親家庭自立支援計画



【関連するSDGsの取組】



施策群

施策指標 2029（令和11）年度に向けて進捗管理し、成果発揮を目指す指標 - を設定

6 子育て支援

方向性

全てのこども・子育て世代への切れ目のない支援を通じて、誰もが安心して出産・子育てができ、また、保護者がこどもに向き合う気持ちの余裕を持って生活することで、親子の笑顔と幸せにつながるよう、妊娠期から子育て期にわたる相談支援や一時預かり施策の充実、18歳までの小児医療費助成の無償化など、子育て世代の「ゆとり」を創り出すための視点を持ってこどもの健やかな成長を支援する取組を進めます。

指標

一時保育・乳幼児一時預かり等の利用実人数【こども青少年局】	※ 現状 16,665人 目標 20,000人	小児医療費助成の対象者数※ 【健康福祉局】	※ 現状 424,368人 目標 490,110人
子育て応援アプリ「バマトコ」のアクティブユーザー数 【こども青少年局】	※ 現状 33,581人 目標 125,000人	子育て世代への住宅補助世帯数 【建築局】	※ 現状 0世帯 目標 240世帯

7 保育・幼児教育

方向性

待機児童や保育の必要性が高い保育児童の解消に向けて、安定的な保育・幼児教育の場の確保に取り組むと共に、質の確保・向上を図ります。また、多様化するニーズに対応し、安心して子育てできる環境整備に向け、個別に支援が必要な児童に対する支援や保育士等の人材確保などを進め、保育・幼児教育の体制の確保に取り組みます。

指標

待機児童数※ 【こども青少年局】	※ 現状 0人 目標 0人	保育児童数※ (育児休業延長希望を除いた数) 【こども青少年局】	※ 現状 1,511人 目標 1,511人以下
---------------------	---------------------	--	-------------------------------

8 こどもの体験機会づくりと居場所の充実

方向性

全てのこどもが、創造力や好奇心、自己肯定感を育むことができるよう、年齢に応じた体験機会の充実や多様なニーズに応じた居場所づくりに取り組みます。また、放課後の時間を過ごすこどもの安心・安全な居場所を確保すると共に、学校の長期休業期間中の昼食提供などを実施することで、子育て世代にゆとりを創出し、こどもに向き合う時間の充実につながるよう取り組みます。

指標

こどもの体験機会数※ (スポーツ・文化・農を含む) 【こども青少年局】	※ 現状 調査中 目標 1%	放課後キッズクラブ・放課後児童クラブにおける長期休業期間中の昼食提供利用者数 【こども青少年局】	※ 現状 20,265人 目標 22,000人
---	----------------------	---	-------------------------------

9 困難な状況にあるこども・家庭への支援

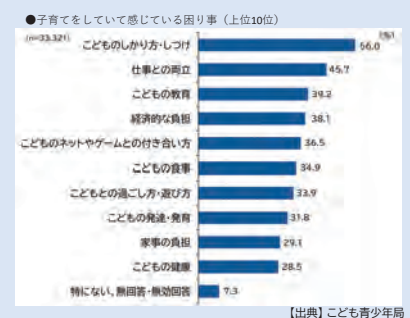
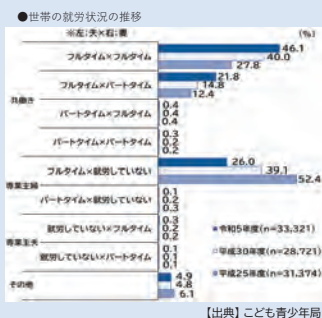
方向性

貧困や、児童虐待、ヤングケアラーなどの様々な困難を抱えるこども・若者及びその家庭の状況を早期に把握し、包括的かつ適切な支援へつなげるため、各学校や地域人材との連携、相談窓口の充実や地域の人材育成、広報、地域住民への普及啓発など総合的な対策を推進し、こどもやその家族を社会全体で見守り・支える環境づくりを進めます。

指標

よこはま子ども・若者相談室の※ 利用者アンケートで、「気持ち が軽くなった」と回答した割合 【こども青少年局】	※ 現状 64.2% 目標 80%	若者の社会参加に向けた支援※ による改善者数【こども青少年局】	※ 現状 1,430人 目標 7,700人 (累計)
--	-------------------------	------------------------------------	-------------------------------------

【関連データ等】



07 障害児・者



現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

○障害児・者への支援

- ・障害のある人が増加する中で、医療的ケア児・者や重症心身障害児・者など日常的な支援を必要とする人、発達障害のある人も増えています。個々のニーズは多様化しており、こうした人々の生活を支えるためには、支援に関する取組や体制の充実が重要です。
- ・障害のある子どもたちが、安心して保育所等や学校に通うことができるよう、受入れ環境の拡充や通学の支援などが重要です。

○「働きたい」ニーズに応える

- ・第4期障害者プラン策定に係るアンケート調査では20歳未満の約7割、20歳から40歳代の約5割が働きたいと回答しており、多様な働き方や障害者就労に対する理解の促進に取り組むことが重要です。

○インクルーシブ*なまちづくり

- ・多様性に配慮した制度の推進、公共施設や設備のバリアフリー化の推進、インクルーシブスポーツの推進、デジタル技術を活用した体験機会の拡充など、様々な分野で総合的にインクルーシブなまちづくりを進めることが重要です。
- ※ 障害の有無、年齢、性別、国籍などに関わらず、多様な人々が互いを尊重し、共生する社会や取組

目指す姿 - 4年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

- ・障害児・者やその家族への支援を行うと共に、ソフト・ハードの両面からインクルーシブなまちづくりを進め、誰もが安心して暮らせる環境が整っています。
- ・DX技術等の活用による体験機会・就労機会の拡充を通じて、自分らしさを発揮し、いきいきと生活ができています。

政策指標 - 市民の皆様の横浜市内での暮らしの意識を表す指標 -

障害児・者にとって暮らしやすいまちだと思いますか

30.9%



障害児・者に対する支援充実に向けた取組に関連する主な個別分野別計画等

横浜市障害者プラン

よこはまわくわくプラン
(横浜市子ども・子育て支援事業計画／横浜市子ども計画)

横浜市教育振興基本計画



【関連するSDGsの取組】



施策群

施策指標 2029（令和11）年度に向けて進捗管理し、成果発揮を目指す指標 - を設定

15 障害児・者支援

方向性

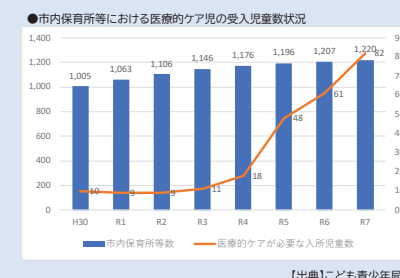
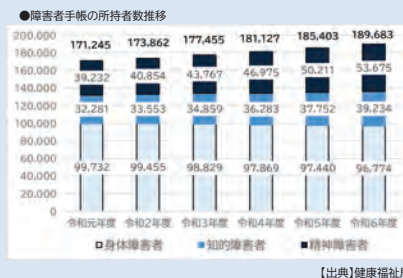
障害のある人が希望する場所で自分らしく安心して生活することができるよう、地域生活を支える様々な社会資源と連携しながら、社会を構成する一員としての多様な暮らしや就労を支える取組を推進します。

また、障害のある子どもたちが将来自らの選択により自立生活を実現できるよう、個々の状況に応じた本人の主体性を獲得する力を引き出し、育てていく支援（エンパワメント）と合わせ、乳幼児期、学齢期、青年期、成人期を通じた切れ目のない支援を推進します。

指標

グループホーム利用者数 ※ 【健康福祉局】	現状 6,275人 目標 7,000人	医療的ケア児の待機児童数 ※ 【こども青少年局】	現状 0人 目標 0人
福祉施設から一般就労への移行者数 ※ 【健康福祉局】	現状 1,056人 (R6時点) 目標 1,200人	医ケア児・者等支援者養成数 ※ (養成研修修了者数累計) 【こども青少年局】	現状 305人 (R6時点) 目標 540人

【関連データ等】



●小森自然公園インクルーシブ遊具広場の様子



●医療的ケア児・者の保育やケアの様子



【障害のある人の働き方 ～一般就労と福祉的就労～】

障害のある人の働き方には、企業等で働く「一般就労」のほか、「福祉的就労」があります。福祉的就労は、福祉サービスを提供する事業所での作業等を通じて、収入を得る働き方です。福祉事業所には様々な種別があり、作業内容は事業毎に異なります。福祉的就労を経て一般就労をする人もいれば、福祉的就労で働き続ける人もいます。

横浜市は地域生活を支える様々な社会資源と連携しながら障害のある人の多様な暮らしや就労を支える取り組みを推進していきます。

